

意欲に乏しい入院児への音楽的働きかけ

○大庭千鶴子 中山ひろみ 岡しづ子 高橋富士枝 広瀬登志子
(東京都立梅ヶ丘病院)

I はじめに

音楽は、情感を刺激し、気分安定と、感情表出に役立つことはすでに明らかである。情緒不安定で、意欲の乏しさが目立つ、小学、中学生の入院患者に、音楽の特性をいかした働きかけを行うことにより、情緒が安定し、意欲が向上するのではないかと考えた。援助を試みた結果、取りくみ態度に変化がみられたので報告する。

II 研究方法

- 1 目的 音楽グループに参加し、練習を通して意欲をひき出す。
- 2 期間 昭和59年7月～11月
- 3 対象児 男子8名 表I
- 4 内容 音楽グループを作り、文化祭発表に向けて、歌、ダンス、合奏を練習。

III 援助方法、及び、結果。

1期 様子観察 3回 7月18日～8月6日
開始前に、アンケートをとり、興味、関心を知る。発声、リズム感、ダンス、音符、楽器操作、取りくみ態度、対人関係、表現方法を観察。

表I. 対象児 援助目標、使用楽器

番号	病名	小生 様	状態・像	ねらい	楽器
1	14	野矢 隆夫	我儘 自己中心 協調性欠如	認め 自信をつけ る、やる気を起こす	音感ベル
2	14	38	分裂病 内向的 対人緊張 意欲欠如	肥後 対人解離 言葉 表現 多い	リラックス、好きな 楽器にとりくむ
3	16	44	情緒障害 行動異常 自己中心 頑固 人なつこ	表現を促す 楽しむ、活動をもつ	小太鼓 ジンバル
4	14	43	情緒障害 緊張 我儘 自己中心 協調性欠如	場面混乱 しゃべり 言語不明瞭	タンブリン
5	15	38	情緒障害 自主性欠如 消極的意欲欠如	シナ、万引、たばこ、人に左右され易い	エレクトーン
6	12	21	分裂病 衝動 攻撃的 社会性欠如	独断 空想 想像 言葉 表現 少ない	マリンバ
7	11	80	情緒障害 自己中心 顕示 的、強い 意欲欠如	他児 乱暴 喧言 集中 ない、寝つかない	シンバル 小太鼓
8	11	103	情緒障害 協調性欠如	マイペース、他児 乱暴	ピアノ

1) 発声 ドーソまで、大きく声をだす。2) 歌。からおけで、好きな曲をうたう。3) ディスコダンス、棒股ぎダンス。4) 楽器を自由選択。(表I他児・様・備)

結果

口を開けず、声は小さい。からおけ伴奏の歌は、でき

ず、童謡、唱歌類を歌う。テンポ、リズムが合わず、ディスコに体を振る。メロディは、片手が1名のみ。リズムは、全員とれるが、2名は、テンポが合わない。楽譜は、殆どがよめず、理解は、5～6才程度である。

アンケートでは、歌、ダンス、を希望。合奏は、1名のみが希望。これを裏付けるように、取りくみは、自信なげで消極的。ふざけ、からかいが多く、(1)、(5)、は、煽動し、(4)、(6)、(7)、は、一緒にさわぐ。他の3名は、孤立している。

楽器選びの傾向は、ふざける者が、目立つ楽器を選び、孤立する者は、小さな打楽器をとる。煽動者の(5)、と、(1)、は、各々、タンブリンと、エレクトーンを選び、対称的であった。

2期 合奏練習 5回 8月15日～9月15日
1期をふまえ、レベルと、個性に合わせ、表I、の楽器に向わせ、合奏へ導入する。

- 1) 毎回、違う楽器にふれ、適したものへ誘う。
- 2) 持んだ楽器がむりの場合は、他の楽器にする。
- 3) 鳴らす箇所を色別に表示。メロディ楽器の鍵盤に色シールを貼り、ひき方を簡略になおす。
- 4) 職員5名。リーダーは、全体を指揮し、他は、患者に付きそい、介助、動作模倣させる。
- 5) 5～6才程度の簡単で短い曲を毎回仕上げる。

結果

タンブリンを選んだ(5)、は、他児をからかうので、目立つエレクトーンに誘うと尻込みする。鍵盤3音のみにシールを貼り、和音の繰返しにすると、素直に取りくみ、からかいが減った。無表情で孤立的な(2)、に、大太鼓を叩かせると、大きな音を出し、小太鼓を与える。リーダーを注視し、正しく打ち、楽譜を要求した。

煽動役の(1)、は、出来なくても恰好良さを好むので、エレクトーンからギター、音感ベルへと変え、ベルをメロディ順に配列すると、スムーズにとりくむ。

全員、明るく明瞭なリズムを好み、「メリーさんの羊」、「ロンドン橋」は、練習効果がわかり、取りくみ良い。

3期 課題達成

文化祭発表を目標に、合奏練習を行ない、グループでの役割りを果す。

1)、発表曲は、短く簡単で、繰返しの多い、雄大な、映画主題歌、「ロングストデイ」に決め、テーマをさ

かせ、映画の物語りをする。

2). レベルと、個性に合った8種類の楽器を決める。(表I) メロディー楽器が無理な者は、打楽器にする。表現の乏しい者は、シンバル、小太鼓で、目立つ箇所を叩かせる。自己顕の強い者は、大太鼓とシンバルで、簡単な箇所を大きく打たせる。煽動者、落着きのない者は、大きいメロディー楽器、エレクトーン、マリンバを与えて責任をもたせた。

3) 黒板に大きな紙を貼り、楽器を鳴らす箇所を色別に表示。音の長さは、色符号。鍵盤には、同時に鳴らす和音を同色で表示。

4) ふざけやすい同士は離し、楽器配列を変える。

5) 個別と、2人をペアにして、集中的に練習。次に、全体練習を行ない、上達がわかるようにする。

6). 注意、励まし、賞賛し、叱らない。

結果、

発表曲は、全員がむづかしいとのべるが、リズムカルなマーチを好み、興味をみせた。

楽器は、レベルと、好みに合っていたためか、スムーズに取りくむ。併し、2期の曲より長く、難しいため、簡単にした楽器操作と、色別表示も、動作が伴わず、間違いと、テンポのおくれが目立った。個別に練習しながら、和音は更に減らして単音にし、又、打楽器も、簡略にし、叩く箇所を、色名で合図すると、理解が早く、テンポのおくれも戻った。

(5). は、一番目立つエレクトーンに決ると急に緊張し、はにかみつ、熱心に取りくむ。(1). は、メロディ線に並べた音感ベルも得意気に叩き、ひきやすいように、ベルの配列に傾斜をつけてほしいと要望した。

煽動する(1). (5). と、ふざけにのる(6). (7). を離した楽器配列によって、ふざけが減った。又、指揮するリーダー職員への注視と、楽器への集中がよかった。この結果、合奏のまとまりがみられた。

(6). は、2期からマリンバにとりくみ、継続している。これにより安定しているがむらがあり、指示が通る時は、リズム、テンポ、共に良好であるが、時により、乱打、横臥、集中と散漫をくり返していた。

テンポの合わない(3). (8). には、傍につき、背中、肩を叩きリズムをとると、合わせる事ができた。

発表当日、(1). は、リーダー格として、やるしかないと、皆を励まし、楽器のセットを自ら手伝う。

(3). は、緊張して胃痛となり、欠席。7名が出場する。熱心に練習を続けた(4). は、合奏中、顔を歪め、両目をつぶり、手の動きが止り合奏ができなくなる。

全期を通して、取りくみに変化がみられたのは、(6)

を除く7名である。3期から、小太鼓と、シンバルに取りくんだ(2). は、自分から、合図のサインをはっきりしてほしい。と、真剣な表情で意欲表示した。

IV. 考察

合奏をとおして、7名にとりくみ態度の変化がみられた。3期で楽器に集中し、合奏のまとまりを示したのは、1期から、3期にかけて、各自が適した楽器にとりくめたからである。

1期の楽器の自由選択では、特徴と心情が窺われた。煽動役の(5). や、孤立的な(2). (3). (8). が、目立たぬ打楽器を選んだのは、自信のなさを表わしている。

2期から3期にかけて、逆に、目立つ楽器を与えられると、彼等は、生々し、練習に励んだ。適した楽器の取りくみ態度は、安定し、意欲がみられる。

全員に共通している、自己中心性、協調性、意欲の乏しさは、経過の中で、積極的なとりくみへと変化していった。

この性格的な特徴に働きかけた援助方法で、音楽の特性が生かされ、安定さもたらした。同時に、技術面上達も、意欲向上につながったと考える。

1). 色別音符、色別表示は、分り易く、自尊心を損なわずにとりくめ、技術の習得に役立った。

2). 短い曲は、取りくみ態度をつくる導入方法として効果的であった。毎回、仕上げた中で、合奏に必要な集中力と、協調性が養われ、発表曲への取りくみを容易にした。

3). 文化発表会の目標設定は、練習とりくみの動機付けとして、意欲をひき出ののに重要である。

4). グループをまとめるには、煽動者に責任の役割りを与え、課題にとりくませる配慮が必要である。

自信欠如と、甘えの表現とみて、取りくめる楽器を見つけることが必要である。

5). 注意はするが、叱らず、動きを共にした援助は、信頼感を得た。賞めつゝ、励ます関わりが必要である。受容した援助は、意欲をひき出す上で効果的であった。

V. むすび

情緒不安定で、意欲の乏しい入院患者の音楽的関わりをとおして、楽しんでとりくむことが、安定と、意欲をひき出す上での基本であることを改めて学んだ。

参考文献

障害児の音楽療法 (安田専門講座)

心身障害児の音楽療法 P. ノードフ、C. ロビンズ

リズム楽器の教え方 森脇中著

ふかしの楽器あそび 酒田富治著